

序

中日兩國の關係は其由來する所遠く、近時に至りては益々親善の度を加へ、眞に善隣の名に反かざるに至れり。惟ふに國と國との親交は政府間の外交のみによりて保たるべきものにあらずして、相互國民間の眞摯誠實なる交渉に俟つ所多きは絮説を要せず。殊に兩國民中學業を同じくするもの互に往來交遊し、學を談じ業を語り、胸襟を開いて親密なる友誼を結ぶに於て、兩國民間の了解と好感情とは益々深厚を加へ、延いて兩國々交の上に偉大なる効果を招來すべきは疑ひを容れざる所なり。

今秋我が工學會が中華工程師學會々員諸君を本邦に招待せるは善隣友邦國民中學業相同じきもの、間に於て眞率なる意見の交換をなし、友誼の増進を圖り、延いて東亞の産業的進歩、經濟的發展に貢獻する所あらんことを外ならず、雖も其結果の齎らせる所は叙上の目的を達成せると共に、更に進んで兩國々交の上にも好影響を與へたるは敢て啀々を要せざるべし。

日本工業大觀は此招待の趣旨を更に擴張敷衍し、本邦工業關係者舉つて中國の全工業關係者を歡迎するの意を明にせんがため、工業の各部門に付夫々權威ある専門家の責任ある分擔執筆を乞ひ、本邦工學及工業界の現在の真相を披瀝叙述し、中國の工學者、工業家をして今回の行に加はると否とに拘はらず、等しく本邦工業界の狀勢を明快に察知するを得せしめ、以て他山の石たらしめんことをものにして、從來曾て一國の學術及事業に携はる者が斯の如く率直眞實に自國の現狀を説述して、他國の同學同業者に贈りたる事實は、余の寡聞未だ曾て之を知らざる所なり。

而して本書の内容に至つては、今茲に更めて言辭を費すを要せざるべく、啻に中國人士を裨益する所尠なからざるべきのみならず、本邦に於ても他に類書なく、全く今回の如き好機に於て始めて實現を見たる空前の好著述と云ふべく、邦人も亦以て自國の工業界の現狀を鳥瞰するの機會を得たるものと云ふべし。聊か所感を述べて序となす。

大正十四年十二月五日

樞密顧問官
社團法人工學會理事
古市公威
工學博士 男爵

古市公威

序

中日兩國之關係，由來已久，近時親善之度益加真，不負善隣之名美。竊思國家與國家相互之親交，非專賴政府間外交之力而即足，待國民間相互真摯之交際者實多，此理甚明，無用絮述。兩國中學業相同者，若互相往來談論學業，開胸襟而結親密友誼，則兩國民之了解與感情必愈加深厚，因之兩國國交上可招來偉大效果不容疑也。

今秋我工學會所以招待中華工程師學會會員諸君到本邦者，原使善隣友邦國民中學業相同者之間，得交換意見，增進友誼，由此對於東亞產業進步與經濟發展上亦期有所貢獻，上述之目的既得達成，則兩國々交上亦得至好之影響，此不待啾々贅述者也。

更爲紀念招待之趣旨，擴張其意義起見，特編日本工業大觀一書，以期不忘本邦工業關係者爲表示歡迎中國全工業關係者之意，對於工業各部門，分請專門大家責任執筆，關於本邦現在工學及工業界之真相，敘述纂詳，使中國工學者及

工業家，無論參加今回之行與否，舉得詳細察知我工業界之大勢，可作他山之石者也，然而一國之學術及事業所關，爽直說述，分贈於他國之同學同業者，以余寡聞，尙未知有其實例。

本書之內容，更不要多費言辭，對於中國人士不但大有裨益，即在本邦亦無其類，有今回之好機會，方有今回空前之好著述，邦人於是亦得鳥瞰自國工業界現狀之機會，得益亦非淺鮮，聊叙所感爲序。

大正十四年十二月五日

樞密顧問官
社團法人工學會理事長
工學博士 男爵

古市公威